

# 農業



平成27年6月号  
会誌 No. 1600

## 目次

### 巻頭言

分散型再生可能エネルギーを考える……………八木 宏典 3

### 論 壇

都市農業の新たな展開に向けて……………望月 龍也 4

### 大日本農会秋田支会活動報告

いま、秋田の農業をどう拓くかV

－若い世代が未来を語る－

講師紹介……………佐藤 了 6

基調講演……………大塚 裕樹・大塚 早苗 7

少量品目を有機栽培・所得向上へ6次産業化－

－大塚ファームの生産・加工・販売の6次化への挑戦と人材育成－

質疑・意見交換…………… 18

### 寄 稿

地球環境変動が農業に及ぼす影響……………長谷川利拡 21

### 研究の最前線

農家が簡単にできる排水改良技術の開発……………北川 巖 32

## 農業・農村の現場から

「女性が拓く農業経営」シリーズ（第7回）

- 人も会社も成長しながら成長する……………諸藤 享子 40  
－結婚就農女性経営者による，次世代育成と地域農業活性化の取り組み  
岐阜県高山市－

## 世界の農業は今

- インドネシア・バリ島の稲作事情……………堀末 登 46

## 私の経営と志

- 新規参入の過程と今後の展開……………森安 晃司 52

## 統計情報

- 平成26年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量 54

## 農政情報

- 大日本農会だより…………… 56

## ミニ情報

- 「農地（耕地）面積と耕作放棄地の推移」…………… 31  
「穀物等の国際価格の推移」…………… 51

### 表紙写真説明

### ビワの季節（千葉県館山市沼）

毎年6月をピークにビワが出回る季節である。収穫は，果実の熟し具合を色で確認しつつ，果実を手で持ち上げて，果柄を軽く折るように袋ごと行ってカゴに入れる。その後は，農家で除袋・選別・箱詰め作業が行われるのだという。

栽培は，ハウスの場合は平坦地だが，露地は山の斜面のままに植え付けられていることが多く，見るからに大変な作業だ。

ビワは日持ちがしないデリケートな果物で，特に冷蔵庫への保存は味落ちの元となるため，収穫後なるべく早く味わうことが肝要である。

また，ビワは，上品な果実の味わいだけでなく，古来より，枝・葉・根・茎・種すべてに良い成分が含まれているとされ，特に葉の薬理作用と使い方についてはインターネットに多く紹介されている。

千葉県の研究センターでは，「種無しビワ」を世界で初めて育種開発し，2006年に品種登録している。  
(写真／説明：編集部)